

小島出張所の移転について

1 小島出張所の現状

- ・昭和57年（1982年）3月竣工（築41年）
- ・敷地が狭隘で、庁舎も狭い。
- ・建物の老朽化が進んでおり、故障不具合が頻繁に発生している。
- ・洪水及び高潮での浸水が想定されており、特に高潮では、最大7m程度浸水する可能性がある。

2 小島出張所のあり方に関する検討（庁内検討会）

- ・令和8年度（2026年度）に大規模改修工事が予定されていることから、「庁内検討会マニュアル」に基づき、令和4年度に庁内検討会を設置
- ・小島出張所の今後のあり方について具体的な方針を検討

3 現状の課題と対応方針

（1）災害対応の課題

洪水浸水想定において最大4m程度、高潮浸水想定において最大7m程度浸水する可能性があり、消防機能の低下と消防活動への影響が懸念される。

（2）敷地や庁舎が狭く、設備等が不十分

	敷地面積	延面積	配置人員	配置隊	設備等			
					仮眠室	女性配置	消毒室	消火栓
小島出張所 (昭和57年)	496㎡	252㎡	19人	消防隊、救急隊	大部屋	不可	無	無
城南出張所 (平成28年)	1,561㎡	415㎡	19人	消防隊、救急隊	個室	可	有	有

※消防出張所平均 敷地面積：1,336㎡、延面積：445.55㎡

- ・駐車スペースや打ち合わせスペースが狭いため、住民、自治会長、消防団員等が来庁しにくい。
- ・敷地が狭いため、小隊レベルの訓練も制限されるとともに、消防団等との連携訓練もできない。
- ・個人スペース（更衣室・寝室）の確保が不十分であり、女性職員が配置できない。（職域拡大ができない）

（3）財政面（大規模改修工事）の課題

消防署所は24時間体制なので、庁舎を使用しながらの工事が困難であるため、仮設庁舎が必要であり、その際に指令管制システム等の移設も行う必要があることから、通常よりも多額の費用がかかってしまう。
現時点で小島出張所周辺に空地等はなく、仮設庁舎建設のための敷地を確保することは困難な状況である。

方針

大規模改修を実施せず、近隣へ移転する。

4 移転候補地の検討と方針

移転候補地の検討条件

まずは、財源的観点から、市有地への移転建替を優先的に検討



- ① 洪水浸水等の影響
- ② 幹線道路へのアクセス性及び人口集中地区のカバー
- ③ 消防隊の最適配置

方針

- ・小島出張所は、西部市民センター跡地へ移転建替を実施する。
- ・令和9年度（2027年度）からの運用開始を目指す。

5 事業の費用対効果

移転建替時に庁舎の延面積を拡張しても、有利な財源（緊急防災・減災事業債）を活用することで、**大規模改修と同程度の実負担となる見込みであり、費用対効果が大きい。**

西部市民センター跡地移転による効果

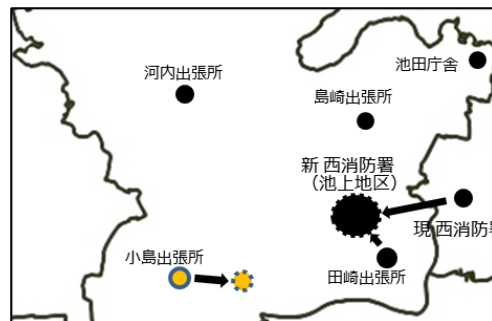
① 災害対応力の向上

- ・洪水浸水等の影響が軽減される。
- ・熊本高森線沿いに位置し、西環状道路（建設中）や西廻りバイパスに近いため、幹線道路へのアクセス性が向上する。
- ・災害等発生リスクが高い「人口集中地区」を効率的にカバーできる。
- ・日常的な様々な訓練により職員の能力が向上するとともに、自主防災クラブや消防団との合同訓練等により、地域防災力の向上に繋がる。

② 住民等との連携強化及び職員のモチベーションの向上

- ・相談や訓練等で住民や消防団等が来庁しやすくなり、緊密性が深まることで連携が強化される。
- ・職員が「働きやすい職場」を整えることで、女性職員の職域拡大や職員のモチベーション向上に繋がる。

【西区の消防署所配置状況】



【小島出張所状況】



【小島出張所移転候補地】

